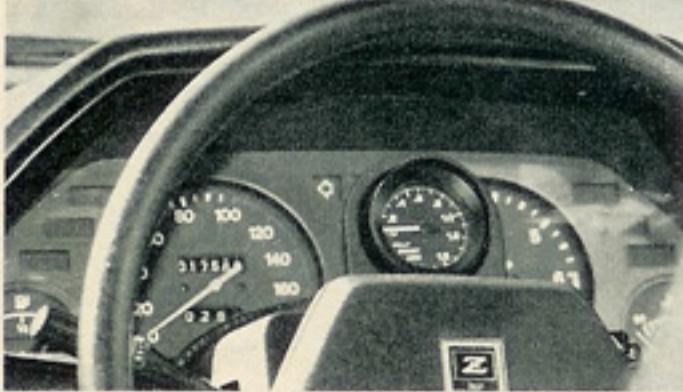


# Fair lady S130Z Twin turbo

## 心地そのままに、トマークのナンバー1マシン!

### フェアレディS130Zツインターボ by トライアル

▼インパネ回りはノーマルだが、ステアリングコラム上に取り付けられたブースト計が唯一の変更点だ



►助手席のダッシュボード下には、リターダー(左)と2連メーターを装備。メーターは、左が油温計、右が油圧計となってい



去年の終わり、通称「谷田部」のテストコースで、最高速307・955 km/h (T 誌計測) という、国産チューンドカー史上前人未踏の大記録を打ちたてたのが、このトライアルチューンドS130Zツインターボだ。エンジンは、L28をベースに3・0ℓまでスープアップ。これにギャレット製タービンT04を2連装。空冷インタークーラーは、HKS製特注だ。過給圧は、最大1・4 kg/cm<sup>2</sup>まで上げることができるのだが、最高速アタック時には、1・1 kg/cm<sup>2</sup>まで抑えて走ったとのこと。それと言うのも、このマシン、420 PSまで計測できるシャシーダイナモのメーターを3速で振り切ってしまうというから凄い。おまけに過給圧を1・4 kg/cm<sup>2</sup>まで上げて全開にすると、頑丈といわれるL型のミッショングバラバラになってしまふ程。まさにモンスターだ。チューナーの牧原氏は「シャ

ニーダイナモのメーターは振り切ってしまったので正確には分からないが、1・1 kg/cm<sup>2</sup>の時で、最高出力460 ps / 6500 rpmくらいのスペックでしょう」と語る。これだけの話からすれば、かなりハードなチューンで、ストリートなどでは乗れないと思うのだが、これがまた実に扱いややすい。ストリートで普段の足として使つても何ら問題はないのだ。クラッチひとつとっても、B&Bのようなハードなタイプは使用せず、ツインプレートクラッチを使用しているので、女性でもラクに扱えるほどクラッチは軽い。

また外装に目を転じても、フロントとリアにごく控え目なスピーカーを装着しているだけで、かなり大人しい。言い古された言葉を用いるなら、この車こそ「羊の皮を被った狼」、ノーマル然としたスーパーZと呼べるだろ。

トライアル 4/10日